

はじめに

「コーチング」という言葉を近年、耳にする機会が増えてきたのではないのでしょうか。「コーチング」と聞いてスポーツを連想する人も多いと思います。その手法は、「指示・命令・圧迫・強制」つまり「やらせる／強制」というイメージがあると思いますが、この手法は「コーチング」とはいえませんが。

「コーチング」は、「促す」「自発的」がキーワードとなり、承認する（褒める）ことや、傾聴による共感と信頼関係を作り、相手が求めるゴール（目標）へともに進んでいく（サポートしていく）手法のことです。前述の「やらせる／強制」とはまったく逆の位置づけになります。

私のコーチとしてのスタートは約26年前、小学生のバスケットボールのチームを率いたところからのスタートとなります。当時は、強豪チームの指導者といえば、練習であれ、試合であれ、選手を怒鳴りちらし、指導者の思いどおりに「やらせる」ことが当たり前となっていた時代です。この風習に疑問を感じていた私は、「促し」「自発

的」を念頭に、主に「褒めて育てる」「自分たちで考えさせる（自主性）」を重んじ、「のびのび、面白いチーム」作りを行いました。その結果、県の決勝で「やらされる」強豪チームを大差で破り、子どもたちが設定した「優勝、全国大会出場」を達成することができました。

当時、社会に目を向けると、「やらされる」子どもたちと同じようなことがまかり通っていました。いわゆる体育会系上司が、部下を「指示・命令・圧迫・強制」で「やる」ことが当たり前となっていた時代です。私はここにも大きな疑問を持ち、子どもたちの世界を変えるには、大人の世界を変える必要があります、社会を変える必要があるという気持ちに駆られました。自分ができることなど小さなことかもしれませんが、そこに挑戦しようと、社会に直結する大人と企業（法人・諸団体など）向けのコーチングアカデミーの前身会社を2001年5月に設立し、2007年12月に「コーチング」専門のJIMCCA福岡コーチングアカデミーを設立、受講生の皆様、研修先企業の皆様との体験と研究を通じ、現在の「稲田式コーチング」の完成に至っております。

時代の変化とともに、皆様の置かれる環境や悩みにも変化が見られます。しかし、人の「伸び率」と「今を好転させる力」は、人に等しく与えられた唯一無二のもの。そう信じ、日々人と企業と社会に向き合っております。

この1冊を読み終えたとき、少しでも「前に進もう」、そんな気持ちになつてもらえれば幸いに存じます。